【開催報告】

日本学術会議学術フォーラム
「2040 年の科学・学術と社会を見据えて取り組むべき 10 の課題
～イノベーション・越境研究・地域連携・国際連携・人材育成・研究環境～」

2023 年 7 月 2 日に日本学術会議講堂にて、日本学術会議学術フォーラム「2040 年の科学・学術と社会を見据えて取り組むべき 10 の課題～イノベーション・越境研究・地域連携・国際連携・人材育成・研究環境～」を開催した。オンライン含めて約 200 名が参加した。梶田隆章・日本学術会議会長の開会挨拶では、若手アカデミーが公表予定の見解案について企業や行政も交えてディスカッションを行うこと、また日本学術会議の執行部を含むシニアのメンバーも若手アカデミーの取組みを支援してきたことがメッセージとして伝えられた。続いて岩崎渉・若手アカデミー代表から、人文・社会科学と自然科学にまたがる多様な分野の研究者で構成される若手アカデミーでは、今後 20 年のイノベーション創出を担う世代の研究者という当事者意識に基づき、研究者コミュニティ・行政・産業界・市民社会・諸外国の若手アカデミーと対話・連携しながら幅広い活動を行ってきたことがミッション・ステートメントとして紹介された。

講演では最初に岩崎代表から、いまこそ研究環境・業界体質を改善し、人材育成・キャリアパス整備を推進しなければ、越境研究・国際連携・地域連携は推進されず、今後 20 年間にわたる我が国からのイノベーションの創出も期待できないこと、そのためにいま取り組むべき 10 の課題を若手アカデミーとして提示することが説明された。続いて、髙瀬堅吉・若手アカデミー会員からイノベーション領域、

石川麻乃・若手アカデミー会員から越境研究領域、加藤千尋・若手アカデミー会員から地域連携領域、入江直樹・若手アカデミー会員から国際連携領域、平田佐智子・若手アカデミー会員から人材育成・キャリアパス領域、岩永理恵・若手アカデミー会員から研究環境・業界体質領域について、それぞれ阻害要因と今から取り組むべき課題について解説が行われた。続くパネルディスカッションでは、小野悠・若手アカデミー幹事のモデレートにより、市川衛・READYFOR(株)基金開発・公共政策責任者/（一社）メディカルジャーナリズム勉強会代表、西川徹・株式会社 Preferred Networks/株式会社 Preferred Infrastructure 代表取締役社長最高経営責任者、馬場大輔・文部科学省研究振興局大学研究基盤整備課大学研究力強化室長、望月眞弓・日本学術会議副会長、岩崎代表が 10 の課題についてセクターを越えていかに取り組むべきか議論を行った。最後の全体ディスカッションでは、安田仁奈・若手アカデミー副代表のモデレートにより、全登壇者が参加者からの質問への回答を通じてフロアを交えて意見交換した。最後に、岩崎代表から閉会挨拶が行われた。

終了後のアンケートでは、印象に残った点として「世代に関係なく、ほぼ共通の認識があることが確認できた」、「業界問題という発想が新鮮」、「環境を整えてからイノベーションが起きるまで１０年はかかるため、今すぐ動かなければいけないという状況が共有できた」、「イノベーションの課題は明らかになってきているがどのように取り組むかがまだ見えていない印象」といったコメントが寄せられた。また、未来に向けてとるべきアクションについて、「一般市民への発信」、「異なる分野、業界との協力」、「強い覚悟と堅い決意のもとスピードを持って行動すること」、「各大学の研究者とマネジメント側の対話」、「10 の課題の多くはシニアにも当てはまるため、実務の簡素化などを進め、まずはシニアが元気にならなければならない」など、今後に向けた意見が多く寄せられた。10 の課題を提言に終わらせることなく実現に向けて引き続きさまざまな関係者とともに議論・行動を起こしていきたい。

（報告者：小野悠／豊橋技術科学大学）